

沖縄県CSF（豚コレラ）の 侵入経路と予防対策

1月23日、農林水産省において、「第11回拡大CSF疫学調査チーム検討会」が開催され、沖縄県への侵入経路等について次のとおり発表になりました。

主な発表内容

- ★ 沖縄県にウイルスが侵入した時期は11月下旬頃
- ★ 沖縄県で分離されたウイルスは、岐阜県の野生いのししから分離したウイルスと最も近縁→海外からの新たな侵入ではない
- ★ 沖縄県の初発農場（国内52例目）は、豚に食品残渣（ハム・ソーセージなどの肉製品を含む残飯）を与えていたが「加熱していなかった」

引き続き飼養衛生管理の徹底や早期発見に万全を期していただくようお願いいたします。また、道外から豚、精液等を導入する際は、ワクチン接種農場で飼養または生産されたものではないことを確認願います。

農場への侵入を防止しましょう

飼養衛生管理基準の遵守を徹底し、特に次の項目に注意しましょう。

- ◆ 衛生管理区域内への搬入資機材は、包装等の消毒を実施する。
- ◆ 衛生管理区域内における愛玩動物の飼養自粛
- ◆ 畜舎立入時の適正な消毒、着替、履替、外用長靴と畜舎内用長靴の接触防止等。
- ◆ 飼養豚の毎日の健康観察を入念に行い、異常発見時には速やかに獣医師の診療を受ける。
- ◆ 衛生管理区域への野生動物の接近防止
- ◆ 異常豚の早期発見、届出
- ◆ 食品残渣（残飯等）を給与する際は、適切な加熱処理（70℃30分以上又は80℃3分以上）を実施

「第 11 回拡大 CSF 疫学調査チーム検討会」より

沖縄県におけるCSF発生及び伝播要因の推定

分かったこと

○ 分離ウイルスの遺伝子学的性状

- (1) 新たに海外から侵入したウイルスである可能性はない。
- (2) 国内流行ウイルスの変異の中でみると、
 - ① これまでに国内で確認された発生農場に由来するものではない。
 - ② 岐阜県の感染イノシシから分離された株と最も近縁。

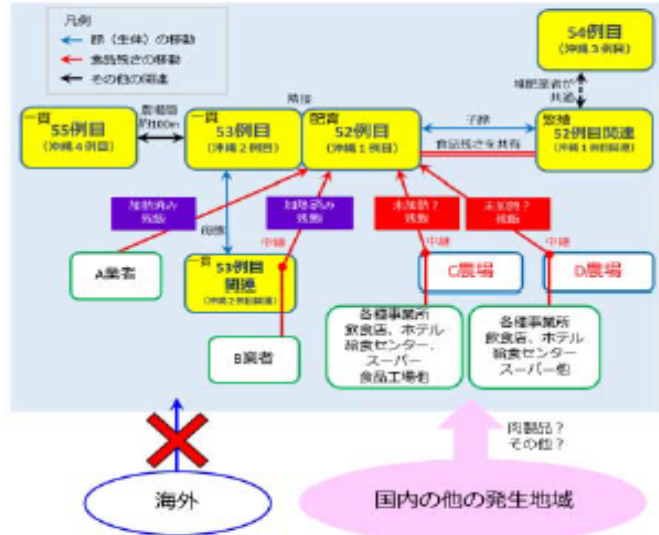
○ 沖縄県へのウイルス侵入要因と伝播要因

- (1) 豚生体、精液、畜産資材などによりウイルスが持ち込まれた可能性は低い。
- (2) 加熱が不十分な肉製品を含んだ食品残さの給餌により、感染した可能性が否定できない。
- (3) 沖縄県内で確認されたすべての発生事例は、初発農場から伝播したと考えられる。

○ 今後の発生予防対策

- (1) 全国全ての豚等飼養農場における衛生管理の再徹底。
- (2) エコフィードについて、食品残さの加熱基準を確実に満たしたものの給餌を徹底。

疫学関連図



食品残さは、これまでの海外での発生経験などから、CSFウイルスの主要な侵入経路の一つと考えられている。また、ASFウイルスの非発生地域への侵入についても同様に、食品残さの豚への給餌が原因であることが最も多いと言われている。
 出典: OIE, FAO